



兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会鳥取大会

8月4日(土)・5日(日)、兵庫教育大学大学院同窓会鳥取大会が「ANAクラウンプラザホテル米子」において、「開山1300年を迎えた大山の麓で教育の未来を語ろう!」をテーマに開催されました。この大会は、毎年各地区支部の持ち回りで開催されているもので、今回は鳥取県支部を中心に東中国・四国ブロックが力を結集し盛大な会となりました。鳥取県・米子市・境港市・大山町各教育委員会の後援事業として来賓のご臨席を得、北は岩手県から南は佐賀県まで16都府県の修了生・在学生と大学関係者など、合わせて90名の参加がありました。鷺見寛幸大会実行委員長を中心に委員の皆さま方が、細かい配慮の行き届いた心温まる大会を創りあげてくださいました。



8月4日の同窓会総会は、川村庸子会長の開会挨拶から始まり、議案として平成29年度の事業報告や会計決算報告、平成30年度の事業計画や会計予算案、創立40周年記念事業への協力や西日本豪雨被災地域への義援金について審議が行われ、原案どおり了承されました。続いて、アピールする大会に向け院生連絡協議会の八幡明さんから大会宣言が読み上げられました。



研究大会は、鷺見実行委員長の主催者挨拶に続いて、来賓の山本仁志鳥取県教育委員会教育長、金川朋史米子市教育委員会教育次長から祝辞をいただきました。次いで、来賓紹介の後、福田光完学長による挨拶とともに、これからの教員に求められるコミュニケーション力の育成や教員養成の課題等について講話が行われました。



記念講演では平井伸治鳥取県知事にお越しいただき、「小さくても勝てる～『砂丘の国』のポジティブ戦略～」と題して、将来ビジョンに向かって着実に歩む住民目線に立った町づくりについて、鳥取県の施策を分かりやすくユーモアを交えながら熱く語っていただきました。



教育実践発表では同窓会員の三谷祐児氏による「大山仰ぎ日本の教育語り合い草莽崛起の種をまきたし～「俳句で学校づくり」と「午前授業5時間制」～」と加藤智史氏による「大山町発!鳥取県西部教育圏構想プラン～広域小規模特認校制度の導入に向けて～」と題して、実践発表が行われました。引き続き、講話では大山寺圓流院大館宏雄住職による「大山開山1300年祭」と大山町教育委員会鷺見教育長による「大山の自然」と題して、歴史と伝統の中で地域に根付いた大山の文化や自然について講話が行われました。



また、研究大会の恒例となった「教育実践研究活動等に係る表彰」が行われました。大学院を修了後、優れた教育実践研究活動等を行い大学及び大学院同窓会の名誉を高めその発展に寄与された8人の同窓会員の方々に福田学長及び川村会長から嬉野賞等の賞状並びに記念品が授与されました。



嬉野賞 1名：伊井 直明（兵庫県，教育基礎 4期）

奨励賞 7名：小川 雄太（兵庫県，授業実践開発 36期） 河合 信之（兵庫県，認識形成系教育 34期）

津田 直子（大阪府，生徒指導 17期） 松田 雅代（大阪府，授業実践開発 35期）

三谷 祐児（鳥取県，言語系 15期）

中 佳久（和歌山県，障害児教育 19期）・小川 圭子（大阪府，幼児教育 18期）

※中佳久氏と小川圭子氏は，連名による教育実践研究論文受賞者。

研究大会の最後に参加者全員で記念の集合写真を撮りました。

平成 31 年度は，兵庫県姫路市で 8 月 3 日（土）・4 日（日）に開催することの予告と参加の誘いが尾崎文雄大会実行委員長と横内恵副実行委員長から行われました。全国各地から集まり，今大会が成功裏に終わったことを祝し，また来年度兵庫県での再会を約束しました。



情報交換会では，衣装も新たに鳥取県支部修了生による地元民謡「貝殻節」の披露や会員によるハーモニカ演奏等での盛り上げました。また，会場内では各県から持ち寄られた銘酒に舌鼓を打ちながら，懐かしい学生生活を語り合い旧交を温める姿があらこちらで見受けられました。



8 月 5 日の二日目は選択型の巡検が行われました。全員が米子駅に集合し記念撮影をした後，参加者は，①「日本遺産を訪ねる」大山寺周辺散策と精進料理のコース，②「鬼太郎の町を訪ねる」水木しげるロード散策と海鮮料理のコースのそれぞれに分かれ出発しました。「日本遺産を訪ねる」コースでは，大山寺周辺の名所旧跡などを巡り豊かな自然にも触れました。「鬼太郎の町を訪ねる」コースでは，水木しげる記念館を見学の後，水木しげるロードを散策しゲゲゲの鬼太郎の世界を肌で感じる，心に残る巡検となりました。



巡検（米子駅前）



巡検①「日本遺産を訪ねる」コース ～大山寺周辺散策と精進料理～



巡検（米子駅集合写真）



巡検②「鬼太郎の町を訪ねる」コース ～水木しげるロード散策と海鮮料理～

